

今月の論語

未だ生を知らず
焉んぞ死を知らん

生きることが難しい。まだ生きることがわからないので、死の意味などともわからない。

今月の桐宅放送は、東原岸舎東部校9年の川原さくらさんです

野の仏ギャラリー ⑳

馬頭観音坐像

南多久町大字下多久

光背、坐像、蓮華台が一体化しています。顔は正面と左右の三面あり、怒りの表情です。正面の逆立つ頭髮上に馬頭を載せています。正面の手は合掌をし、腕と手首に円環状の飾り(釧)を着けています。光背の左右には、それぞれ二手ずつが刻まれています。左手は法輪・宝棒、右手は剣・斧を持っています。馬頭観音は観世音菩薩の变化観音で、六観音の一つです。



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○頭上の馬は悪魔を下し、煩惱を砕く象徴とされます。また、馬頭観音は馬の守護ともされます。
○銘の讃岐七十番は、現在の香川県三豊市にある本山寺です。

連載

教育長コラム

ちよっとい話



「悪い子はいない」

急斜面でみかん栽培を営む祖父母と暮らしたAは、部活動終了後に山の中腹の自宅まで自転車で帰り、その後みかん山を一周駆け回って仕事用具の置忘れなどを集めた。「そこまでしなくていい」という祖父母に、Aは「自分の運動つげに」と返すのが口癖だった。現在は医者として活躍している。

Bは部活動終了後に、近隣のママさんバレーの練習に参加して競技力をつけ、早朝には兄の後を継いで新聞配達をした。母は、「兄たちが自立したから、あなたはアルバイトをしなくていい」と言いが、「自分の運動のためだから」と卒業まで続けた。後に、実業団のバレー部に入って夢をかなえた。

一流アスリートの活躍や、それまでの努力に感動する日が続く。しかし、隣近所の子どもたちもなかなか立派だ。祖父母や両親への思いやりに溢れている。
「悪い子はいない」と断言する。

教育長 田原優子

市民文芸

◆ 刻を打つ陶器の人形動き出す
個々の仕事を始むることく
川浪 信子

◆ 終活と言えども捨てるにしのびない
しつけのついた着物の数々
梶原恵美子

◆ 息の呉れし長崎土産枕灯の
ステンドグラスに癒やされ眠る
浦野 嘉恵

◆ 限界に挑みたいんだ本当に
限界なのか確かめたいんだ
野崎 隆幸

◆ 「同性婚」婚は男女の間の事
婚のつかない造語がほしい
尾形 節子

◆ 脇路に朽ちし酒蔵花蘇芳
富樫 明美

◆ うららかや幼と作るにぎり飯
本村 則子

◆ 遠かすみ潮満ちて来し唐津湾
おおやはな
武富 律子

◆ 草焼きに風の生まるる河川敷
中嶋 清子

◆ どこかしら母の面影春の雲
中嶋 清子

◆ 夢しばみ大風呂敷が取かしい
田代恵美子

◆ バスの中どうぞここにと優しい手
井上 東子

◆ 郊外へ広く開けた佐賀平野
中尾 和弘

◆ どん底で人の心が読めてくる
松下 修

◆ 店先の浅利とき折あくび
大谷 和子